

令和5年度 介護サービス生産性向上に向けた取組み ～ICT導入・展開による生産性向上～



社会福祉法人 砥部寿会
特別養護老人ホーム 砥部オレンジ荘
介護支援専門員 : 山崎 容道
生活相談員 : 上河内 仁

特別養護老人ホームにおける改善課題

- ①介護記録の情報共有化と介護記録時間の削減
- ②職員の負担軽減
- ③利用者の生活環境の改善と職場環境の改善
- ④ICT機器の活用による業務負担軽減

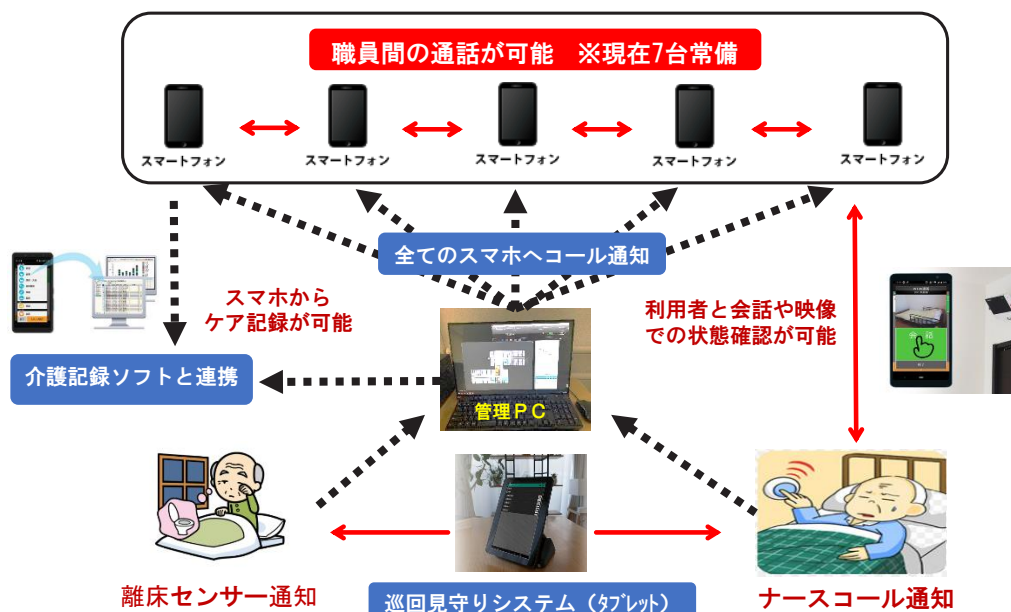
特別養護老人ホームの取組みと現状

- 平成31年4月 **ICT導入へ向けたシステム導入と環境整備**
- ・介護記録システム導入（記録用タブレット含む）
 - ・勤怠管理システム導入
 - ・Wi-Fi環境整備
- 令和3年4月 **ノーリフティングケア導入**
- ・移動用リフト導入
- 令和5年3月 **利用者生活環境整備と見守り付きナースコール導入及び離床センサー付き電動ベッド導入**
- ・大規模修繕工事（浴室・トイレ・食堂等）
 - ・ナースコール更新
 - ・離床センサー内蔵ベッド導入（ナースコール連動）

©社会福祉法人砥部寿会

3

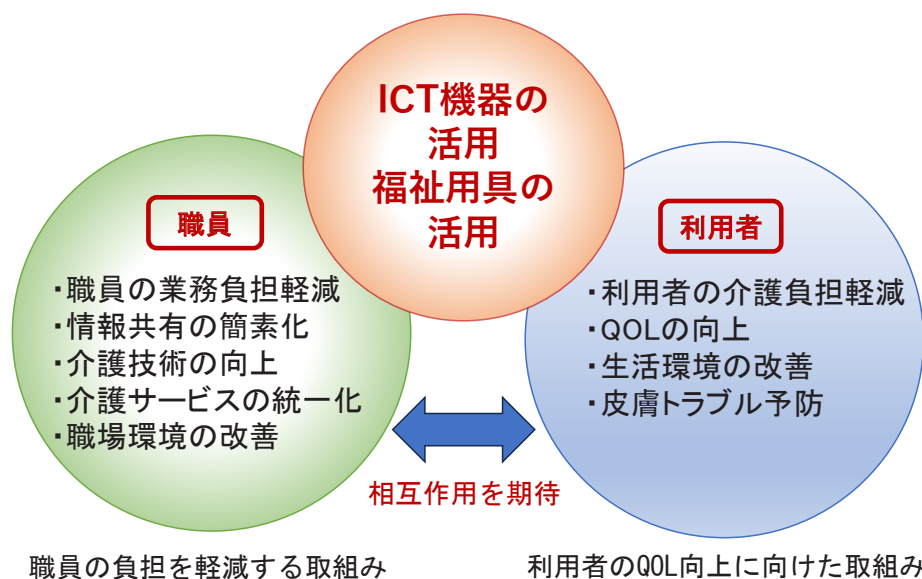
ICT機器の利活用図



©社会福祉法人砥部寿会

4

令和5年度 利用者・職員の 更なる負担軽減へ向けた取組み目標



©社会福祉法人砥部寿会

5

介護サービス生産性向上へ向けた実施スケジュール

		実施時期												備考
内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
委員会・会議・訪問支援	介護サービス向上委員会				第1回会議			第2回会議			第3回会議			3ヵ月毎に開催
	介護生産性向上事業（介護現場改善会議）			第1回会議				第2回会議			第3回会議			
	介護生産性向上事業（個別支援訪問）				1回目訪問			2回目訪問	3回目訪問	4回目訪問	5回目訪問			
	生産性向上事業事例発表会開催										発表資料作成	事例発表会		
実践・研修・導入	皮膚トラブル予防実施				ホディンゲンガー・保護剤等の取組み実践開始									
	移乗研修				第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	機能訓練指導員による移乗研修
	ICT機器福祉用具導入													
補助金	介護ロボット導入支援事業費補助金				照りSCANデモ使用		申請書提出	補助金交付決定	照りSCAN導入					補助金交付未定 ※10月下旬決定予定
	介護生産性向上事業費補助金													補助金申請

©社会福祉法人砥部寿会

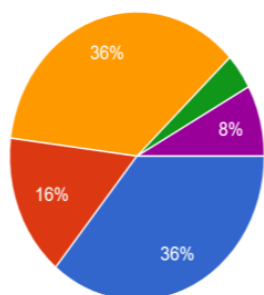
6

職員アンケートで課題を見える化

現状の業務確認と職員意識を確認するため、アンケートを実施して“課題の見える化”を図った。

回答者職種
25件の回答

実施時期：令和5年7月



- 介護士（正職員）
- 看護師（正職員）
- 介護士（パート職員）
- 看護師（パート職員）
- その他（介護支援専門員・生活相談員・機能訓練指導員・その他等）

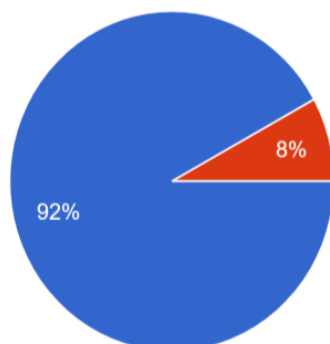
©社会福祉法人砥部寿会

7

取り組み前の職員アンケート

福祉用具を使用して、抱え上げない移乗介護をしていますか？

25件の回答



- はい
- いいえ

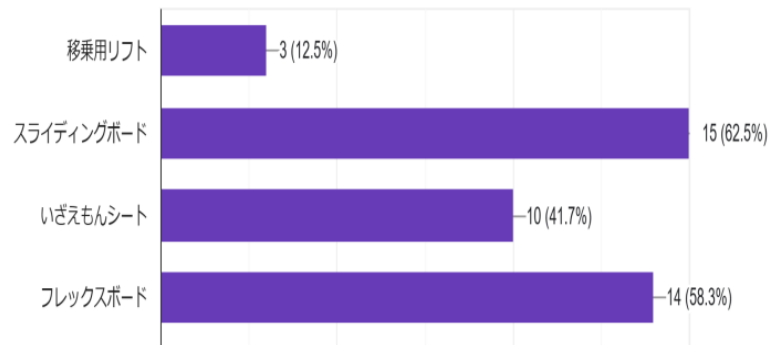
©社会福祉法人砥部寿会

8

取り組み前の職員アンケート

あなたが使用している福祉用具を選んでください？

24 件の回答



©社会福祉法人砥部寿会

9

取り組み前の職員アンケート

今後、移乗の際には、利用者の安全と負担軽減及び職員の腰痛予防のために、全職員に移乗用リフトを使用して対応して頂きます。継続して福祉用具を使用していくためにはどうしたら良いと思いますか？

※例：台数を増やす、場所を固定する、研修を行うなど

25 件の回答（一部抜粋）

- ・ **研修を行う**
- ・ **リフトの台数を増やす・研修を定期的に行う**
- ・ **使いこなせるように再度研修。台数を増やす。**
- ・ **場所を固定する。複雑でない使用しやすいものがいい。**
- ・ **移乗用リフトを使うのであれば、職種、正職、パート職関係なくみんなが使用するべきだと思います！**
今の段階では一部の人しか使用していないため、購入しても意味がないと思います！

©社会福祉法人砥部寿会

10

取り組み前の職員アンケート

業務の作業効率を上げるために必要と思うものはありますか？「これがあれば」「こうなれば」負担が軽減すると思うことを教えてください。

25 件の回答（一部抜粋）

- ・入浴のリクライニングチェアを増やす。
- ・タブレットが少ないので増やして頂き、効率よく打ち込みをしたい。
- ・内線機器が増えることで職員を探しまわる時間が減るので負担は減る。
- ・シャワーチェア(リクライニング)の台数を増やす。
- ・壊れていない車椅子の台数確保
- ・朝、昼、夜、の食事の時間だけ、職員を増やすと、職員の負担も減り、利用者様の負担も減ると思います。
- ・現在、お風呂用のリクライニングチェアが1台のため、リクライニングで対応する方が多い日には、スムーズに業務が進まないことがある。
もう1台お風呂用のリクライニングチェアがあればスムーズにまわる。
- ・タブレット、スマートフォンの増台。

©社会福祉法人砥部寿会

11

職員の負担を軽減する取り組み

©社会福祉法人砥部寿会

12

職員の負担を軽減する取組み（Ⅰ）

ICT機器の追加と眠りSCANの導入

・ ナースコール専用スマートフォンと記録用タブレットを増台して、迅速なコール対応の実現と記録待ちの職員を無くすことで、無駄な時間の削減と利用者が安心して生活が送れるようICT機器を活用した見守りを強化する。

ナースコールスマートフォン	7台	⇒	12台へ増台
記録用タブレット	3台	⇒	4台へ増台
記録用PC	4台	⇒	5台へ増台

・ 眠りSCANを導入することにより、利用者の睡眠リズムを把握し、レム睡眠のタイミングでサービス提供をすることで、利用者のノンレム睡眠を妨げないようにする。

また、看取り期にモニターでバイタル確認することで、訪室回数を減らして職員の負担軽減や事前に状態を把握することで、職員の看取り介護に対する安心感へと繋げる。

職員の負担を軽減する取組み（Ⅱ）

福祉用具・福祉機器の追加導入

・ 現在使用している同じ床走行リフトを1台追加。リフトで移乗を必要とする利用者を選定し使用していたが、離れた場所まで取りに行く無駄な時間があった。

また、すぐに使用できない事で、リフトを使わずに移乗をする事もあったが、台数が増えたことにより、東居室と西居室に配置することができるようになり、リフトを取りに行く手間を減らす。

・ 全介助の方も多く、入浴時に背部や臀部を確認しにくい状態であったが、リクライニングシャワーキャリーを使用することで、しっかり背もたれが倒せることや、背部や臀部の確認が出来るようになった。また、今回の増台で入浴時間の時短へと繋げる。

職員の負担を軽減する取組み（Ⅲ）

ICT機器・福祉用具使用マニュアルの作成と使用方法の統一化

- ・業務の可視化を図るため、業務過程の整理を行い誰もが同じ手順で作業ができるよう文書によるマニュアル作成と動画によるマニュアル作成を行う。
- ・操作方法を動画で撮影し、手順書を作成する。また、そのデータを共有フォルダ内で管理する事により、いつでも閲覧できるようにし、新しい職員や技能実習生、介護福祉の実習生の技術向上へと役立てる。

職員の負担を軽減する取り組みの成果（Ⅰ）

ICT機器の追加と眠りSCANの導入した結果

- ・ナースコールスマートフォンを増台したことで、9割の現場職員が常備できるようになり、コール対応のスピードが格段に速くなった。また、スマートフォン通話を活用することで、職員を探す・呼ぶ・指示する時間や移動距離が大幅に削減できたことで、介助へ充てる時間や職員の休憩時間を増やすことへも繋がった。
また、記録用タブレットが増えたことで、記録待ちをする職員が居なくなり、スムーズに業務が回るようになった。
- ・眠りSCANを導入したことで、夜間睡眠の浅い利用者や眠りの深い利用者をモニターで判断して、訪室タイミングを計れるようになった。

眠りSCANを使用した成果

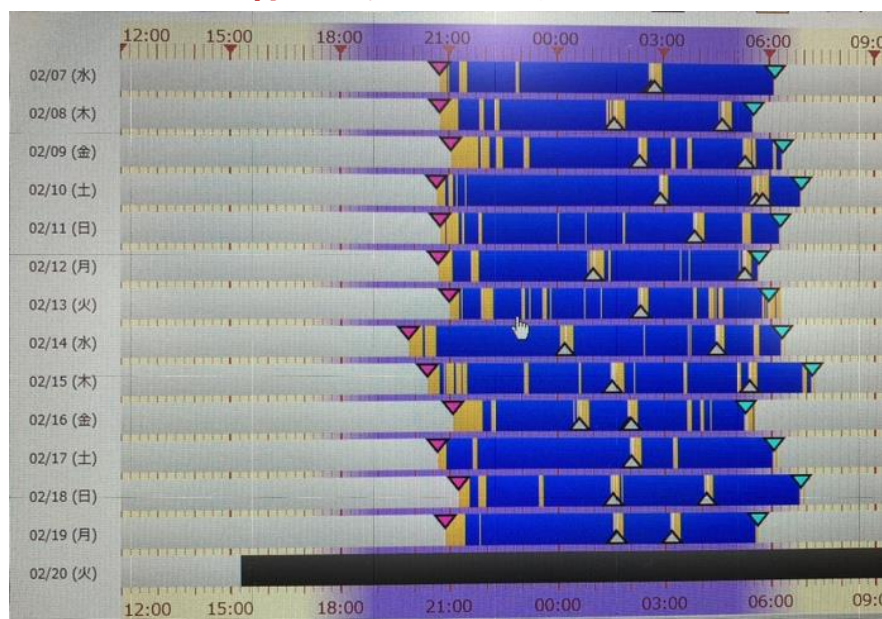
・いつの時間帯に尿便意で目が覚めるか。また、尿便意以外の時間の睡眠状況がデータで確認できる事で、眠られている時間帯は巡回見守りシステムで確認をし、**訪室回数を減らす**事が出来た。

・眠られている時はゆっくり休んでいただけるように、夜勤帯の**訪室のタイミング**を調整出来た。

・**転倒のリスク**も合わせて考える事が出来るようになった。

・良眠されていると思っていた利用者が、**データ**でみると眠りが浅く、夜間途中覚醒を頻繁に繰り返している状況も見えたため、**日中は体を動かして頂く活動**などにも、参加をして頂くようにした。

A様の眠りSCANデータ



職員の負担を軽減する取り組みの成果（Ⅱ）

福祉用具・福祉機器の種類を増やした結果



（従来のシャワーチェア）
背もたれが倒れず全介助の方の介助が困難だった。



（導入したリクライニングシャワーチェア）
背もたれがしっかり倒れる事で、入浴前後にベッドへの移動がしやすくなった。また、背面がメッシュなので、洗いやすい。

©社会福祉法人砥部寿会

19

職員の負担を軽減する取り組みの成果（Ⅲ）

ICT機器・福祉用具使用マニュアルの作成と使用方法の統一化に取り組んだ結果



（取り組み結果）

- ・今回導入したICT機器や、福祉用具の使用法の動画やマニュアルを作成。
また、介護マニュアルも一つのフォルダに集約し、各PCからネットワーク内で共有できるようになったことで、使用方法が分からないときは、いつでも確認できるようになった。

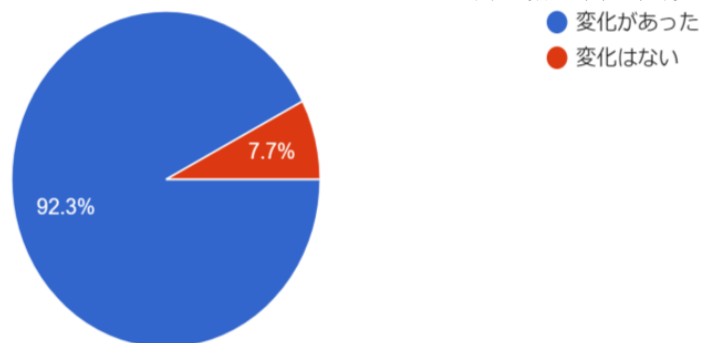
©社会福祉法人砥部寿会

20

取り組み後の職員アンケート

ICT機器や福祉用具などが、増台導入されて業務に変化はありましたか？

実施時期：令和6年1月



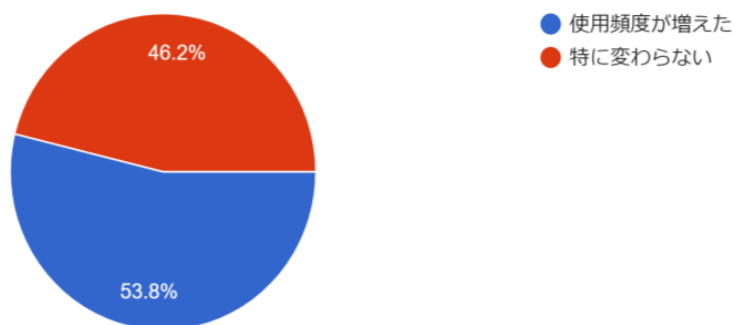
- ・手元でコール対応できる事で、**事故防止にも繋がっている**と思う。
- ・体を抱えることが減り、**介護負担は軽減**された。
- ・介助の際に、**無理な体勢が減った**。

©社会福祉法人砥部寿会

21

取り組み後の職員アンケート

リフトを増台したことで、リフトを使用する頻度は増えましたか？

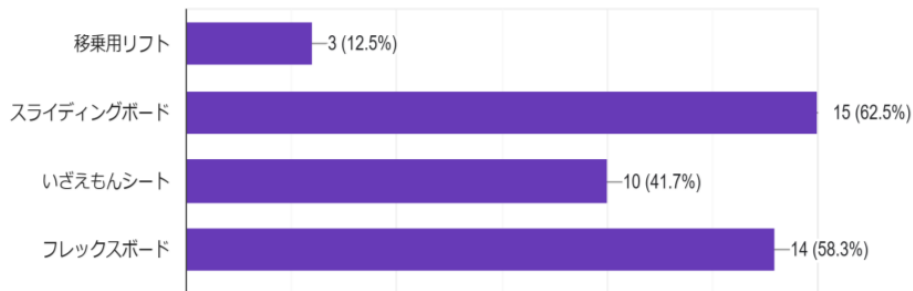


- ・増台されたことで、**利用しやすくなった**。
- ・増台したことでリフト対象者の居室付近に**置き場所を固定**できた。
- ・**使用マニュアルが整備**され、**自信を持って使用**できるようになり、使用頻度も増えた。

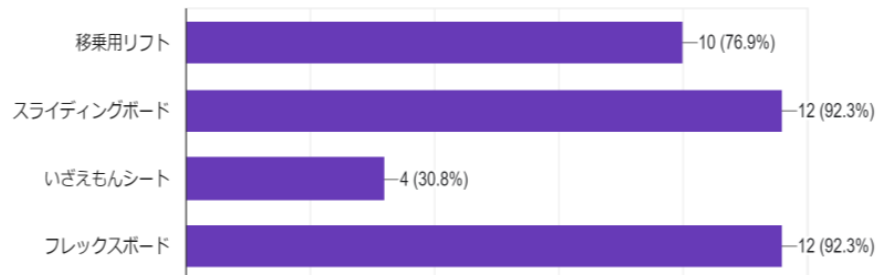
©社会福祉法人砥部寿会

22

取り組み前の職員アンケート結果



取り組み後の職員アンケート結果

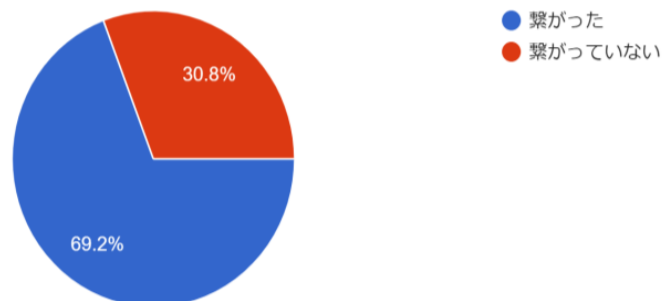


©社会福祉法人砥部寿会

23

取り組み後の職員アンケート

リクライニングシャワーキャリーを増台したことで入浴介助の時短に繋がりましたか？



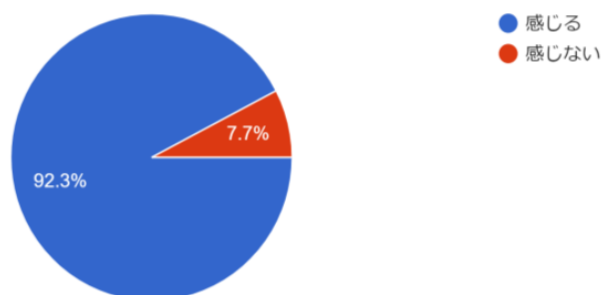
- ・ トータルで**10分～20分は時短**になった。
- ・ 入浴の順番を**考える時間が無くなった**。
- ・ 時短は感じないが、**入浴介助はスムーズ**になった。

©社会福祉法人砥部寿会

24

取り組み後の職員アンケート

令和5年度に生産性向上に向けた取り組みを行いました
ましたが、業務効率化へ繋がったと感じますか？



- ・ 職員を探す**手間が無くなった。**
- ・ 業務中の動線も変わり、**時間のロスが減った。**
- ・ 業務にかかる**時間と労力が軽減した。**

©社会福祉法人砥部寿会

25

利用者の QOL向上に向けた取り組み

©社会福祉法人砥部寿会

26

利用者のQOL向上に向けた取組み

皮膚トラブル予防へ焦点を当てた取組み

- ・ ICT機器や福祉用具の整備と同時に、**褥瘡**に対する皮膚トラブル予防に焦点を当てて取組む。
- ・ 排せつ介助、入浴後に**保湿剤を塗布**する事で、皮膚の乾燥を予防。皮膚の落屑や表皮剥離のリスクを予防を図る。
- ・ **長時間座位**に伴う負担軽減のため、タイマーを使用し、時間毎に**座位中の除圧**が出来るようにする。
- ・ 除圧と姿勢保持の目的でさまざまな形の**クッション**を導入。車椅子の座位保持や、ベッド上での姿勢保持に使用し、**安楽な体位の保持**を行う。

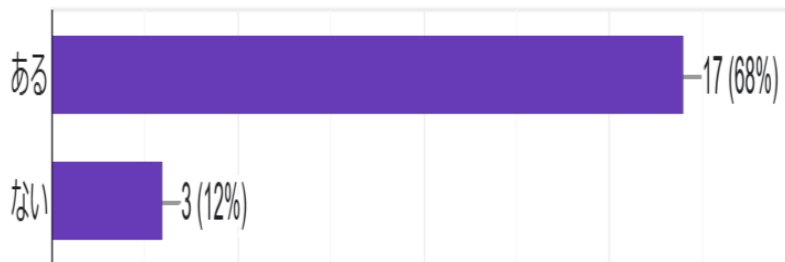
皮膚トラブル予防への取り組み結果



保湿剤、全身シャンプーを弱酸性に拘り、今まで使用していたものから変更。
皮膚の状態を確認するツールとしてスキンチェッカーで利用者様の皮膚を毎週確認。

取り組み後の職員アンケート

皮膚トラブル予防の取り組みを始めて、入所者の皮膚状態に変化がありましたか？



©社会福祉法人砥部寿会

29

取り組み後の職員アンケート

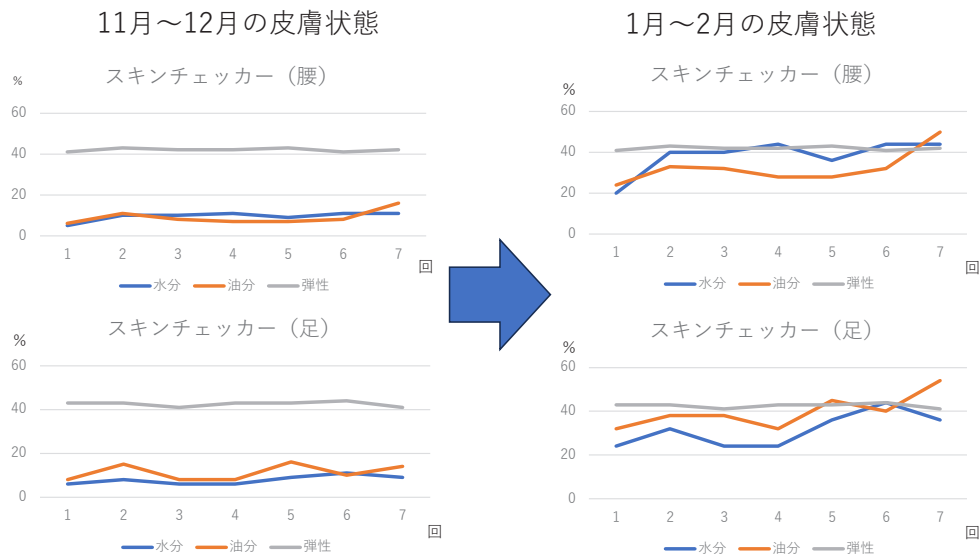
皮膚トラブル予防の取り組みを始めて、どのような変化がありましたか？

- ・服を脱いだ時の皮膚の**落屑**が**少なくなった**
- ・写真でみても**皮膚の乾燥が減った**と感じる
- ・**皮膚がモチモチ**している。
- ・痒みがあって自分で**引っ掻いて傷が出来ていた**利用者が**減った**。
- ・乾燥して**白い粉が飛ぶ**ことが以前よりは**少なくなった**。
- ・皮膚に**しっとり感**がある。
- ・**保湿性が高まって**、乾燥による**肌荒れが軽減**している。また、マッサージ効果とリラクゼーションにも繋がっている。

©社会福祉法人砥部寿会

30

皮膚トラブル予防への取り組み結果



©社会福祉法人砥部寿会

31

取り組みの総括

令和5年度は、昨年度に導入したICT機器の追加や新たなICT機器の導入（眠りSCAN）、福祉用具・福祉機器の追加導入を行った結果、迅速なコール対応の実現と手待ち時間の削減、利用者の見守り機能を強化することができ、更なる**利用者の安心・安全な生活**に寄与することができた。

今回の取り組みから、次の点に変化が見られた。

- ・職員を探す時間や記録待ちの職員を無くすことで、**職員の業務負担が軽減**されたことは基より、時間の使い方に変化が見られ、**個別ケアに充てる時間が増えた**。

- ・今回、ICT機器の追加導入と皮膚トラブルの取り組みを同時に行ったことで、職員の意識も、ICTを取り入れた介助や個別ケアへの視点、考え方を意識するようになり、**職員意識の変化**が見られた。

- ・業務マニュアルの見直しと業務の標準化、情報の共有化を図ったことで、新しい職員にも理解しやすく、文書以外に動画でも直ちに確認ができることで、**職員の安心と職員の自信**にも繋がり、職員の気持ちにも変化が見られた。

©社会福祉法人砥部寿会

32

今後の課題

•更なる利用者のQOLの向上と介護サービス生産性向上を目指すためには、**全職員が業務マニュアルに沿って福祉用具や福祉機器を使用する必要がある。**

また、今回の取り組みで作成した**業務マニュアルを継続的に見直し**、サービスの質向上につなげるためには、**個々の職員の業務マニュアルへの理解度を確認する仕組みの整備**が必要と考えている。

•非常勤職員など、決まった時間帯しか従事していない職員は、福祉用具や福祉機器の使用回数が少なく、使用方法やその必要性をしっかりと習得できていない職員もいる。

そのため、**ICT機器や福祉用具、福祉機器を使用する目的、効果的に活用する介護技術に関する研修及び意見交換する機会**を持つことが必要と考えている。

今回の取り組みで、職員の時間の使い方が変わり、ケア方法に対する職員意識や職員の気持ちにもゆとりが生まれた。今後は、利用者の**“その人らしさ”**とは何かを考え、**“利用者支援”**に活かしていくことが、真の課題と考えている。